

今後の渇水対策について

現状認識

旭川水系の主要２ダム（旭川ダム及び湯原ダム）の９月３日（木）午前９時現在の貯水量は、４５，５６３千 m^3 （４５．２％）です。

このことから、主要２ダムの合計貯水率が「旭川渇水調整に関する行動計画」で定める渇水調整の目安である５０％を既に下回っている状況となっており、今後も無降雨の状況が続き、現在の取水量の確保を続けたと仮定した場合、７０日程度で主要２ダムの貯水量がタイムラインにおいて危機的渇水期とされる１０％程度まで低下する恐れがあります。

以上により、緊急に水利使用の調整を行わなければ公共の利益に重大な支障を及ぼす恐れがあるため、具体的な節水対策（取水制限等）を関係機関が協力して実施する時期に来ているものと考えられます。

今後の取り組み

このような状況から、関係機関は相互に協力・連携を密にして、以下の取り組みを行います。

- 1) 各関係機関相互間において、雨量、各ダムの貯水量、河川流況等の状況を把握し情報共有を図る。

また、岡山河川事務所においては、主要ダムの貯水状況を把握し（平日９時現在：速報値）、ホームページ等を通じて情報提供を行う。

- 2) 各関係機関においては、流域住民等への節水意識の高揚を図るため、広報を強化する。

- 3) ダム管理者は、主要２ダムの合計貯水量がさらに減少することが予想される点を踏まえ、ダムからの補給量を３０日以上確保できるよう、速やかに主要２ダムの統合運用（プール）に移行し、下記のとおり取水制限を実施する。

９月９日（水）午前９時から下記取水制限を実施（第１次取水制限）

◆上水道	（実績取水量から）１０％
◆工業用水	（実績取水量から）１０％
◆農業用水	（許可取水量から）３０％

なお、気象、水象その他の状況変化にもよるが、１４日後（９月２３日目途）に第２回渇水調整会議を開催し、上記取水制限の強化又は緩和の対応を協議及び決定する予定です。